

平成19年12月18日

保護者様

広島市立中島小学校
校長 井崎 明

平成19年度

全国学力・学習状況調査の結果概要および調査結果に基づく指導方法等の改善計画について

寒冷の候、保護者の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より本校教育の推進にご理解・ご協力をいただきまして深く感謝いたしております。

さて、本年度より実施となりました全国学力・学習状況調査の結果概要および調査結果に基づく指導方法等の改善計画を下記のようにまとめましたのでお知らせいたします。

記

1 調査の目的

- (1) 全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の成果と課題を把握し、その改善を図る。

2 調査の実施日 平成19年4月24日(火)

3 調査実施学校数(公立学校)等

区分	調査実施校数(校)			調査実施者数(人)			
	国	県	市	国	県	市	学校
小学校第6学年	21,889	569	141	1,125,585	25,916	10,749	67
中学校第3学年	10,050	253	63	1,023,516	22,825	8,659	—

4 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数・数学)

主として知識に関する問題〔A問題〕

- ◇ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- ◇ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など

主として活用に関する問題〔B問題〕

- ◇ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- ◇ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査

- ◇ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等

学校に対する調査

- ◇ 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況及び体力・運動能力の全体的な状況等に

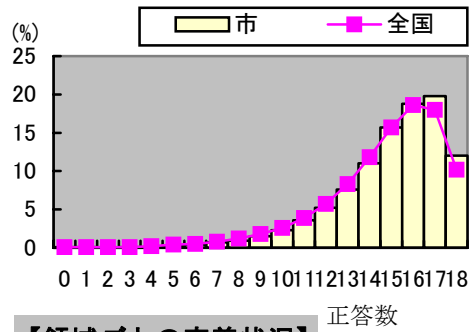
5 全国学力・学習状況調査の調査結果に基づく指導方法等の改善計画

1 教科について

国語 A

全国平均 81.7 市平均 82.8
学校平均 86.1

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話す・聞く	56.6	59.8	55.4
書くこと	85.3	86.6	90.8
読むこと	67.3	69.8	74.4
言語事項	86.8	87.7	91.5

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	81.6	82.8	84.0
短答式	81.8	83.3	88.5
記述式	—	—	—

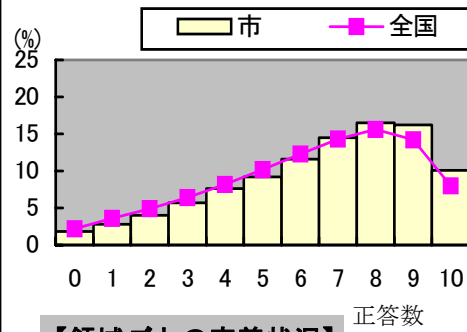
定着状況

- 当該学年までに配当されている漢字を、正しく書いたり読んだりすることができる。
- 要旨を把握しながら読んだり、必要な事柄を選んで文章に書いたりすることができる。

国語 B

全国平均 62.0 市平均 65.0
学校平均 67.0

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
話す・聞く	70.9	75.1	74.6
書くこと	61.7	63.7	64.2
読むこと	57.7	60.9	62.9
言語事項	77.0	77.5	78.5

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	62.8	64.3	64.6
短答式	62.4	66.5	68.5
記述式	62.1	64.7	65.9

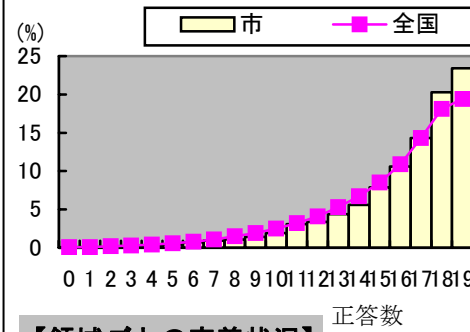
課題

- 考えたことや伝えたい内容が効果的に伝わるように話すことに課題がある。
- 話の要点を聞き取り、効率よくメモを取るなど聞き方に関する知識の理解に課題がある。

算数 A

全国平均 82.1 市平均 84.2
学校平均 85.3

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と計算	81.5	84.4	84.8
量と測定	86.1	89.7	90.3
図形	86.1	87.9	84.6
数量関係	75.4	76.6	81.5

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	76.5	80.0	81.2
短答式	84.1	86.0	86.5
記述式	—	—	—

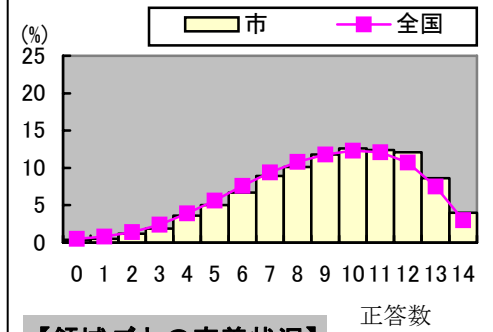
定着状況

- どの領域も当該学年までに習得すべき基礎知識をほぼ身につけている。
- ある程度の思考力や応用力がついている。

算数 B

全国平均 63.6 市平均 65.7
学校平均 65.7

【正答数の分布状況】



【領域ごとの定着状況】

領域	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
数と計算	58.9	61.1	62.3
量と測定	58.0	60.5	58.0
図形	72.5	74.6	81.0
数量関係	65.5	67.7	66.2

【問題形式による定着状況】

問題形式	平均正答率(%)		
	全国	市	学校
選択式	73.0	75.3	70.8
短答式	73.7	75.7	81.5
記述式	45.0	47.2	47.7

課題

- 小数の計算面に弱い傾向がある。
- グラフの読み取り・図形・式の意味・面積の比較について説明する力や自分の考えを記述する力に課題がある。

2 意識調査について

(1) 生活・学習

- 基本的な生活習慣は、相当数が身につけているといえる。世の中についての関心は高く、地域の人々とのコミュニケーションもよくとれている。家で、テレビをほとんど見ない児童がいる反面、4時間以上見ている子どもも20%以上いる。
- ◆ 自尊心に乏しいのか、「自分の良さ」を自分で認めにくい傾向がある。その為、失敗をおそれ、自分から挑戦しにくいことがある。

(2) 教科

- 【国語】
 - 工夫して表現したり、読書したりすることはよく当てはまり、授業もよくわかる。
 - ◆ 国語の勉強が好き、大切だと思うと回答したポイントがやや低い。
- 【算数】
 - 難しい問題に対して、色々な方法で解こうと努力している。
 - ◆ 算数の勉強が身近に感じられないのか、算数を大切と感じていない児童が多い。

3 確かな学力の定着と向上に関する研究目標

<研究主題>心豊かで主体的に活動できる子どもの育成をめざして — 互いの思いや考えを確かに伝え合う力を育てる —
研究の視点：児童の学習・生活面の実態から表現力の必要性を感じ、互いの立場や考えを尊重しながら適切に表現したり、理解したりする力を育むことを目指していく。

4 指導改善に向けた具体的な取組

国語

- 読書指導をより充実させ、段落相互の関係を考え、文章を正しく読み取る練習を通して、理由を述べたり説明したりする力を培う。
- 言語技術を取り入れ、理由を説明したり記述したりする練習をさせる。
- 日々のノート指導、日記指導、感想文指導を充実させ、適切に書く力を、**生活・学習習慣等**

算数

- 実測したり、具体物を操作したりする機会を増やすことで、長さや面積の量感を身につけさせ、理解を深めさせる。
- 中島タイムを系統立てて継続し、小数や分数の四則計算の定着を図る。
- 文章題では、文章の中から必要な情報を読みとり、問題場面を具体的に想像し、立式に結びつける力をつける。

- 生活習慣カードで、実態把握と個別指導を行う。また、家庭学習の内容を検討し、予習・復習などの自主的な学習に取り組ませる。
- 自尊心を高めるために、お互いの良さを伝え合う時間を設定する。国語・算数とも、日々の生活に活用できるという体験をさせたり、将来役に立つという意識に結びついたりするような指導を実践していく。